

「はやりことば」に関する研究(1)

—人間科学部学生の場合—

秋山 胖・上杉 喬・鈴木 賢男

Research on the phrase in fashion (1st Report)

— On the student at Bunkyo University

Faculty of Human Science —

Yutaka Akiyama · Takashi Uesugi · Masao Suzuki

The purpose of the present study is to investigate how frequently the young people use the phrases in fashion and how they are conscious of the contemporary Japanese language.

Subjects were 122 undergraduates (45 males and 77 females) from Faculty of Human Science, Bunkyo University. The mean age was 20.8 years.

It was found that, out of 39 phrases which had been preselected by the researchers, 15 were used by more than 75 percent of subjects and 22 were by more than 50 percent. Generally, the usage of the phrases was more frequent in females than in males.

It was also show that many subjects were aware that "Strange ways of speech and queer phrases are in fashion (83.6%)", "Polite expressions are not used in a correct manner (80.3%)", "Many words are used incorrectly (66.4%)", "Girls often use manlike words (61.5%)", etc. These results suggest that young people are conscious of their broken usage of the Japanese language.

## 本研究の目的

「若者用語」あるいは「はやりことば（流行語）」は、若者の日常用語の中に多用され、年々歳々、あるいは時々刻々移りかわりつつある。「はやりことば」のあるものは、短期間のうちに使用されなくなり、あるものは長期間にわたって使用され続け、「はやりことば」というよりは「日常語」として定着し、生き残るものもある。

「はやりことば」の主な担い手は若者であり、彼らは、その共通語として「はやりことば」を駆使しているように感じられる。

他方、若者が多用する「はやりことば」は、若者が小・中・高校時代を通じて学んできたはずの「国語文法」の枠組みからしばしば逸脱していることにより、「日本語の乱れ」をひきおこしている元凶とみなされる場合も少なくない。

現在、若者達は、どのような「はやりことば」を、どの程度に多用しているのだろうか。彼らの“ことば感覚”、そして“ことばへの関心”はどのようなものであろうか。男女間に差異はあるだろうか。

本研究は、こうした素朴な疑問から出発して取り組まれたものである。

## 方 法

### 1. 調査票

本研究における調査内容は、大きくⅠ部とⅡ部に分かれる。Ⅰ部では、若者の間での「はやりことば」とされるものが、実際にどのくらい使われているのかを調べることにした。調査項目とした「はやりことば」は後出の表3の39語であるが、語の選定にあたっては、『現代用語の基礎知識1990』（自由国民社）の「若者用語の解説」（堀内克明）を参考にして、その中から27語、また、『放送研究と調査』（1989年8月号、1990年7月号、NHK放送研究部）の「現代人の言語環境調査」より4語（『現代用語の基礎知識

1990』との重複2語)を使用し、さらに、文教大学学生の日常会話の中で使われている語を追加したものである。これら「はやりことば」39語の使いかた(表現)は、主に『現代用語の基礎知識1990』の例にならった。I部の設問は、「以下の文章のなかで、自分が普段使っている、または、使ったことのあると思われるものには○、普段使っていない、又は使ったことがないと思われるものには×を( )内につけて下さい。」であった。

II部は、「はやりことば」を含む日常の「ことば」や「ことばづかい」について調査対象者(文教大学生)が、どのような意識を持っているのかを調べたものである。第1問は、最近の世間のことばづかいに関する学生の意識を問うたものであるが、その設問は、「人々の近ごろのことばづかいについて、どんな感じをおもちですか?(いくつでも○)」であった。内容は表4に示す通りであった。なお本問は、NHK調査(前出)の設問をそのまま利用させていただいたものである。第2問は、流行語に対する興味の有無と流行語の使用度合をたずねたもので、I部での「はやりことば」の使用実態と関連するものである。本問もまた、NHK調査(前出)の設問に同じである。

第3問~第5問は、「はやりことば」に関連して最近の傾向として「女性のことばづかいの男性化」が言われるが、このことに関し、どのような意識を持っているのかを尋ねたものである。第3問では「男女のことばづかいはちがっているほうがよいと思うか」、第4問では「女性の男性的な会話を聞いてどう思うか」、第5問では「男性の女性的な会話をどう思うか」を尋ねた。

第6問は、「はやりことば」の特徴の1つである「語尾をのばす話し方」が「気になる」かどうか、第7問はことばの乱れの例として出される「敬語」に関し、「はやりことば」の使用との関係で、「その必要性」についてどのような意識を持っているのかを、最後の第8問では、全体として「最

近の日本語は乱れているといわれるが、どう考えているか」を問題にした。

## 2. 調査対象者

文教大学人間科学部学生122名。男子学生45名、女子学生77名。

平均年齢20.8歳。(男子21.2歳、女子20.5歳)

## 3. 実施年月 1990年12月

## 結 果

### 1. 「流行語」の使用の実態

本調査の対象者(文教大学人間科学部学生)は、若者の間での「流行語」を、実際に、どのくらい使用しているのでしょうか。また、具体的にどういいう「流行語」が好んで使われ、どういう「流行語」には、あまり関心がないのでしょうか。

表1 流行語の被使用頻度率区分ごとの  
流行語数(項目数)

被使用%	全 体	男 子	女 子
100～75%	15( 38.5)	13( 33.3)	14( 35.9)
～50%	7( 17.9)	6( 15.4)	9( 23.1)
～25%	11( 28.2)	13( 33.3)	12( 30.8)
～ 0%	6( 15.4)	7( 19.9)	4( 10.3)
計	39(100.0)	39(100.0)	39(100.0)

表2 流行語使用数ごとの人数

語 数	全 体	男	女
38	1( 0.8)	0	1( 1.3)
32 ～ 35	18( 14.8)	6( 13.3)	12( 15.6)
28 ～ 31	14( 11.5)	4( 8.9)	10( 13.0)
24 ～ 27	23( 18.9)	9( 20.0)	14( 18.2)
20 ～ 23	18( 14.8)	5( 11.1)	13( 16.9)
16 ～ 19	24( 19.7)	8( 17.8)	16( 20.8)
12 ～ 15	14( 11.5)	7( 15.6)	7( 9.1)
8 ～ 11	8( 6.6)	4( 8.9)	4( 5.2)
5	1( 0.8)	1( 2.2)	0
3	1( 0.8)	1( 2.2)	0
計	122(100.0)	45(100.0)	77(100.0)

$$X^2=14.762 \quad P<0.098$$

表1は、本研究で調査した「流行語」を使用した学生の数と割合（以下、「流行語」の被使用頻度・率）をもとに、4区分にまとめたものである。この結果は、被使用率が100%～75%の「流行語」（すなわち、75%以上の学生が使用した語）は、全体では15項目（39項目中38.5%）、被使用率50%以上で見ると全体では22項目（56.4%）であることを示し、大半の「流行語」が、多くの学生によって使用されていることを示した。これを、男子学生と女子学生で比べると、男子学生では被使用率50%以上の「流行語」は19語（48.7%）、女子学生では、23語（59.0%）で、男子に比べて女子の方が、多くの「流行語」を使用する傾向にあることがうかがわれた。

表2は、調査対象者が使用している「流行語」をもとに、使用する語の数（以下、語使用数）を算出し、10区分にまとめたもので、区分毎の人数（%）を示したものである。図1は、人数比（%）の男女比較である。

最も多くの「流行語」を使用している学生（1人）は、39語中38語すなわち97.4%も使用していた。また、20語（51.3%）以上使用している学生は60.7%に達し多くの学生が「流行語」を使用していることがわかる。本調査では調査対象の「流行語」を1つも使用しない学生はいなかった。最も使用語数の少ない学生（1人、男子）でも3語、次に少ない学生（1人、男子）では5語の使用であった。

この語使用数について男子と女子で比較すると、20語以上使用する者は男子では、53%、女子では、64.9%であり、カイ二乗検定の結果は、 $X^2=14.762$ ,  $P<0.098$ となり、女子学生の「流行語」使用数が男子に比べかなり多い傾向にあることが示された。なお、女子学生では、語使用数の最も少ない者（3人）で9語（39語中23.1%）であった。

図1. 流行語使用語数の男女比較

人数比

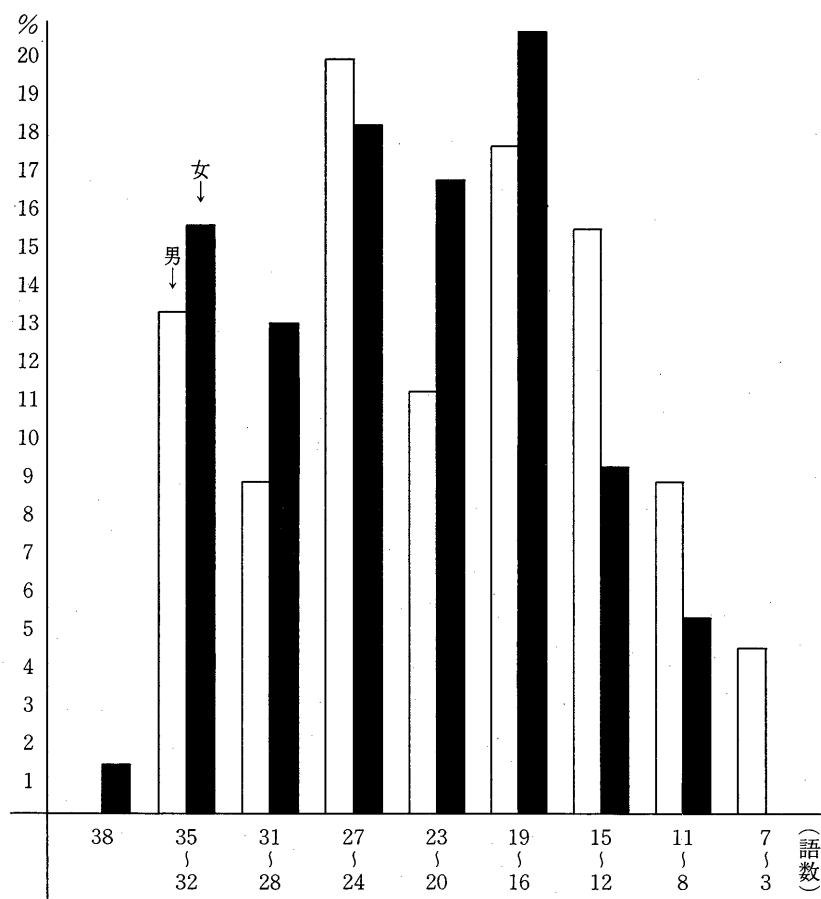


表3は、「流行語」ごとに、その語を使用した学生数・率（以下、語使用頻度・率）を算出し、全体で見て、語使用率の高い順に並べたものである。

どういう「流行語」がよく使われているかを見ると、全体では、1位から10位に挙げられるものは、「ほんと?」「あっそっか」「やばい」(以上97.5%)、「わけわかんない」(92.6%)、「超ねむい」(86.1%)「かつこいいじゃん」

「ばっかみたい」(82.8%) 「おかしすぎる」「むかつく」(82.0%)「ポイント高いよ」(81.1%)であった。これらは、いずれも80%以上という高い「語使用率」である。

語使用率が11位以下で、80%未満50%以上のものは、「ウッソー」(79.5%)、「すごい面白かった」「グサイ」(78.7%)、「おいしいバイト」「あの女けい」(75.4%)、「だっせえ」(74.6%)、「はずしたな」(71.3%)、「っざけんな」(64.8%)、「本物みたく」「わりかしきれい」(59.0%)、「チェックいれてる」(52.5%)、「びしばし」(50.0%)の12語であった。

これに対し、語使用率が最も低い「流行語」は、「巨ばか、巨ブス」の3.3%、次いで相対的に低いもの(30%以下)は、「はぶんちょ」(18.9%)、「メチャンコかわいい」(22.1%)、「ぶっとびー」「ケーキ好きだし」「～するみたいなあ」(24.6%)、「うれピー」(27.0%)、「デューグする」(29.5%)などであった。

「流行語」の使用頻度・率の男女差について、カイ二乗検定を行ったところ、男子学生に比べ女子学生の使用率の有意(5%水準)に高いものは、「ウッソー」(女子94.8%、男子53.3%、 $P < 0.000$ )、「おかしすぎる」(92.4、64.4、 $P < 0.000$ )、「超(チョー)ねむい」(92.2、75.6、 $P < 0.02$ )、「グッドですよ」(89.6、71.1、 $P < 0.02$ )、「すごい面白かった」(88.3、62.2、 $P < 0.002$ )、「本物みたく」(68.8、42.2、 $P < 0.01$ )、「わりかしきれい」(67.5、44.4、 $P < 0.02$ )、「ケーキ好きだし」(33.8、8.9、 $P < 0.000$ )であり、逆に、男子学生の使用率が有意に高いものは、「だっせえ」(女子64.9%、男子91.1%、 $P < 0.003$ )、「はずしたな」(64.9、82.2、 $P < 0.07$ )、「しびい」(22.1、62.2、 $P < 0.000$ )であった。女子学生の方が好んで使用する「流行語」、男子学生の方が好んで使用する「流行語」のあることがわかる。

表3 流行語の使用頻度(人数)・率(%)

流 行 語	全体 人数	%	男 人数	%	女 人数	%	有意 水準
1 ほんと?	119	97.5	42	93.3	77	100.0	0.09
2 あっそっか。	119	97.5	42	93.3	77	100.0	0.09
3 やばい。	119	97.5	43	95.6	76	98.7	0.63
4 わけわかんない。	113	92.6	41	91.1	72	93.5	0.89
5 超(チョー)ねむい。('90)◎	105	86.1	34	75.6	71	92.2	0.02
6 かっこいいじゃん。◎	101	82.8	37	82.2	64	83.1	1.00
7 ばっかみたい。	101	82.8	32	71.1	69	89.6	0.02
8 おかしすぎる。◎	100	82.0	29	64.4	71	92.2	0.00
9 ○○ってむかつく。('90)◎	100	82.0	34	75.6	66	85.7	0.24
10 ボイント高いよ。◎	99	81.1	35	77.8	64	83.1	0.62
11 ウッソー。	97	79.5	24	53.3	73	94.8	0.00
12 あの映画すごい面白かった。('90)	96	78.7	28	62.2	68	88.3	0.002
13 ダサい。◎	96	78.7	36	80.0	60	77.9	0.97
14 おいしいバイト見つけたんだ。◎	92	75.4	34	75.6	58	75.3	1.00
15 あの女けばいと思わない?◎	92	75.4	35	77.8	57	74.0	0.81
16 だっせえ。◎	91	74.6	41	91.1	50	64.9	0.003
17 はずしたな。	87	71.3	37	82.2	50	64.9	0.07
18 っざけんじゃねえーよ。(っざけんなよ。)◎	79	64.8	31	68.9	48	62.3	0.59
19 よくできているので本物みたく見える。('89)	72	59.0	19	42.2	53	68.8	0.01
20 あの子、わりかしきれい。	72	59.0	20	44.4	52	67.5	0.02
21 あの人にチェックいれてるんだ。◎	64	52.5	20	44.4	44	57.1	0.24
22 びしばし仕事をする。◎	61	50.0	20	44.4	41	53.2	0.45
23 「来週試験だって。」「ゲロゲロ」◎	57	46.7	18	40.0	39	50.6	0.34
24 こっち向いてミソ。◎	55	45.1	17	37.8	38	49.4	0.29
25 あの人ちょっと根クラっぽいよ。	55	45.1	18	40.0	37	48.1	0.50
26 昨日は、10時間も爆睡(ばくすい)した。◎	54	44.3	21	46.7	33	42.9	0.83
27 態度がエル。◎	45	36.9	14	31.1	31	40.3	0.41
28 逆玉に乗っちゃえば。◎	45	36.9	15	33.3	30	39.0	0.67
29 しびい。◎	45	36.9	28	62.2	17	22.1	0.00



流 行 語	全体 人数	%	男 人数	%	女 人数	%	有意 水準
30 その背広に、そのネクタイ、グッドですよ。◎	44	36.1	13	28.9	31	40.3	0.29
31 今日の2限ぶっちしょ。◎	43	35.2	16	35.6	27	35.1	1.00
32 デューダする。◎	36	29.5	9	20.0	27	35.1	0.12
33 ありがとう、うれピー。◎	33	27.0	13	28.9	20	26.0	0.89
34 バイトをするみたいなあ。◎	30	24.6	9	20.0	21	27.3	0.50
35 ぶっとびー。	30	24.6	9	20.0	21	27.3	0.50
36 わたしって、ケーキ好きだし。◎	30	24.6	4	8.9	26	33.8	0.00
37 メチャンコかわいい。◎	27	22.1	9	20.0	18	23.4	0.84
38 はぶんちょしょ。◎	23	18.9	8	17.8	15	19.5	1.00
39 巨(きょ)ばかの巨(きょ)ブス。◎	4	3.3	1	2.2	3	3.9	1.00
人 数	122		45		77		

(注1) ('90) …'90年3月NHK調査の流行語

(注2) ('89) …'89年2月NHK調査の流行語

(注3) ◎ …現代用語の基礎知識1990の若者用語

## 2. ことばづかいやことばの乱れなどに関する意識について

表4は、第1問「人々の近ごろのことばづかいについて、どんな感じをおもちですか」に対する1～14項目について、「自分の考えに近い(すなわち(そう思える))とした者の人数(%)」を示したものである。

全体では、最も多くの者が選択した項目は「9 おかしな話し方や変な流行語が多くなった」(83.6%)、次いで「2 敬語の使いかたが乱れてきた」(80.3%)であった。また、大半(50%以上)の学生がそう思えるとした項目は、「4 ことばの間違った使い方が多くなった」「7 意味の分からない外来語や外国語が多くなった」(以上66.4%)、「11 女性のことばが荒っぽくなった」(61.5%)であった。これらは、いずれも、一般に、「ことばの乱れ」と言われる時に指摘される事項であり、その意味では、多くの学生が、「ことばの乱れ」という現象を認め、気がついていることを示すものである。この傾向自体は、

男女別に見ても変わらないが、男女の選択率の $X^2$ 検定の結果は、「9 おかしな話し方や変な流行語が多くなった」(男73.3%、女89.6%)とする者、および「11女性のことばが荒っぽくなった」とする者(男51.1%、女67.5%)は、男子学生に比べ女子学生の方が有意(夫々、 $P < 0.019$ 、 $P < 0.07$ )に多いことが示された。なお、他の9項目についてはいずれも約30%以下であるが、「12昔ながらの方言のよさが失われてきた」が13.9%で、現実には昔ながらの方言を話せる人々が減っていることを考えると、その選択%の低さが目立つ。

表 4

第1問 人々の近ごろのことばづかいについて、どんな感じをおもちますか？(いくつでも)('89-3)	全体 頻度	%	男 頻度	%	女 頻度	%	有意 水準	参考 NHK 調査 %
1 早口の人々が多くなった	40	32.8	15	33.3	25	32.5	0.921	26.5
2 敬語の使い方が乱れてきた	98	80.3	34	75.6	64	83.1	0.310	65.4
3 漢字を使わない人が多くなった	41	33.6	15	33.3	26	33.8	0.961	39.6
4 ことばの間違った使い方が多くなった	81	66.4	28	62.2	53	68.8	0.455	47.9
5 口数が少ない人が多くなった	3	2.5	0	0.0	3	3.9	0.180	11.6
6 人前でも話のできる人が多くなった	29	23.8	9	20.0	20	26.0	0.454	34.6
7 意味の分からない外来語や外国語が多くなった	81	66.4	27	60.0	54	70.1	0.253	58.6
8 標準語を話せる人々が多くなった	31	25.4	8	17.8	23	29.9	0.138	18.6
9 おかしな話し方や変な流行語が多くなった	102	83.6	33	73.3	69	89.6	0.019	68.9
10 しゃれや冗談のうまい人々が多くなった	41	33.6	10	22.2	31	40.3	0.041	27.2
11 女性のことばが荒っぽくなった	75	61.5	23	51.1	52	67.5	0.072	63.5
12 昔ながらの方言のよさが失われてきた	17	13.9	5	11.1	12	15.6	0.491	30.1
(13 この中にはない)	2	1.6	2	4.4	0	0.0	0.062	1.2
(14 わからない)	1	0.8	1	2.2	0	0.0	0.189	0.9
人 数	122		45		77			1,185人

この結果を、1989、1990両年の NHK における調査結果と比較すると、NHK 調査の結果よりも本調査結果の方が10%以上高い項目は、「2 敬語の使い方が乱れてきた」「4 ことばの間違った使い方が多くなった」「9 おかしな話

し方や流行語が多くなった」の3項目であった。特に、2と9は、本調査結果においては80%を超える高率（NHK調査では、67.5%と52.85%）となっている。

他方、NHK調査結果よりも本調査結果の方が低率であった項目は「3漢字を使わない人が多くなった」「5口数が少ない人が多くなった」「6人前でも話のできる人が多くなった」「12昔ながらの方言のよさが失われてきた」の4項目である。

これらの違いは、本調査の対象者が大学生に限られているのに対して、NHK調査の対象者は16歳以上の男女、ということで中高年令層の意識とのちがいを示すものと言えるかも知れない。

表5

第2問 テレビや新聞などで、いろいろな流行語が使われていますが、流行語に興味をお持ちですか。(90-2)	全体 頻度	%	男 頻度	%	女 頻度	%	参考 NHK調査 %
1 おおいに興味があり、いつも口にする	3	2.5	1	2.2	2	2.6	3.7
2 興味があり、よく口にする	23	18.9	11	24.4	12	15.8	12.3
3 興味があるが、あまり口にしない	48	39.3	16	35.6	32	42.1	38.2
4 あまり興味がなく、めったに口にしない	34	27.9	13	28.9	21	27.6	31.9
(5 まったく興味がない)	4	3.3	2	4.4	2	2.6	13.1
(6 わからない)	9	7.4	2	4.4	7	9.2	0.8

表5は、「流行語に対する興味及び流行語の使用」(問2)の結果であるが、全体では、「3興味があるが、あまり口にしない」が最も多く39.3%、次が「4あまり興味がなく、めったに口にしない」の27.9%であった。3と4は「興味」の有無(ないし多少)を別にすれば、あわせて「口にしない」とまとめることができる。これにさらに「5まったく興味がない」3.3%をあわせると70.5%に達することになる。これに対し、「興味があり、よく口にする」(18.9%)と「1おおいに興味があり、いつも口にする」(2.5%)を合計しても、「口にする」者は、21.4%にすぎなかった。この問2を、「興

味の有無」で区分してみると、「興味がある」は60.7%、「興味がない」は31.2%となる。これを男女で見ると、「口にする」は、男子26.6%、女子は18.4%、「口にしない」は、男子64.5%、女子69.7%、また、「興味がある」は男子62.2%、女子は60.5%、「興味がない」は男子33.3%、女子30.2%となり、「流行語を口にする」とする者が女子よりも男子に多く見られるという結果となった。

1990年 NHK 調査結果で、同じく「口にする」者と「口にしない」者とにまとめると、前者が16.0%、後者が83.2%であり、本調査結果以上に NHK 調査は「口にしない者」がずっと高率になっている。

表 6

第3問 男女のことばづかいは違っているほうがよいと思いますか。	全体 頻度	%	男 頻度	%	女 頻度	%	
1 思う	34	27.9	19	42.2	15	19.5	P < 0.025
2 場面によっては	83	68.0	26	57.8	57	74.0	
3 あまり思わない	3	2.5	0	0.0	3	3.9	
4 全く思わない	2	1.6	0	0.0	2	2.6	

表 7

第4問 女性の男性的な会話を聞いてどう思われますか。	全体 頻度	%	男 頻度	%	女 頻度	%	
(1 よい感じがする)	1	0.8	1	2.2	0	0.0	P < 0.002
2 悪い感じがする	78	63.9	37	82.2	41	54.7	
3 別に気にならない	41	33.6	7	15.6	34	45.3	
(4 聞いた事がないのでわからない)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	

表 8

第5問 男性の女性的な会話を聞いてどう思われますか。	全体 頻度	%	男 頻度	%	女 頻度	%
(1 よい感じがする)	1	0.8	0	0.0	1	1.3
2 悪い感じがする	94	77.0	36	80.0	58	76.3
3 別に気にならない	17	13.9	5	11.1	12	15.8
(4 聞いた事がないのでわからない)	9	7.4	4	8.9	5	6.6

表6～表8は、最近の傾向としてよく指摘される「若い女性のことばづかいの男性化」に関しての意識を問題にしたものである。

表6の、第3問「男女のことばづかいは違っている方がよいか」を見ると、全体では、「2場面によっては」が68.0%、「1思う」が27.9%で、あわせて「違っているほうがよい」とする者が圧倒的多数（95.9%）であり、「思わない」とする者は、わずか4.1%にすぎなかった。この傾向は、男女ともに見られるものである。

表7では、第4問「女性の男性的な会話を聞いてどう思うか」がわかるが、「2悪い感じがする」（63.9%）が多数を占め、次いで「3別に気にならない」（33.6%）で、「1よい感じがする」は、わずかに男子学生の1名（0.8%）だけであった。しかし、この第4問では、男子学生と女子学生に意識のちがいがあることが示されていた。すなわち、男子では、「2悪い感じがする」が82.2%で圧倒的であるのに対し、女子では半数をやや越え54.7%であり、かわって「3別に気にならない」が45.3%と半数近くにのぼっている。この男女の違いは $X^2$ 検定の結果、0.2%水準で有意であった。

表8は、第5問「男女の女性的な会話」についての結果である。全体では「2悪い感じがする」が圧倒的（77.0%）で、「3別に気にならない」は、13.9%と少数であった。第4問と比較して、「別に気にならない」が減少したことと、「4聞いたことがないのでわからない」（7.4%）とする者のいることが特徴として見られた。また、ここでは、男女の差は、見られず、ほぼ同じ傾向を示した。

表 9

第6問 語尾をのぼす話し方は気になりますか。	全体 頻度	%	男 頻度	%	女 頻度	%	
1 非常に気になる	27	22.1	11	24.4	16	21.1	P<0.022
2 気になることもある	85	69.7	27	60.0	58	76.3	
3 気にならない	9	7.4	7	15.6	2	2.6	
(4 わからない)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	

表10

第7問 日本人に敬語は必要だと思いますか。	全体 頻度	%	男 頻度	%	女 頻度	%
1 おおいに必要	50	41.0	21	46.7	29	38.2
2 まあ必要	68	55.7	23	51.1	45	59.2
(3 必要ない)	1	0.8	0	0.0	1	1.3
(4 わからない)	2	1.6	1	2.2	1	1.3

表9は、第6問「語尾をのばす話し方」についての結果である。全体として、「3気にならない」(7.4%)とする者は少なく、多くは、「2気になることもある」(69.7%)であった。「1非常に気になる」(22.1%)とする者もまた少なくない。また、「4わからない」とする者は皆無であった。これを男女で見ると、「1非常に気になる」(男24.2%、女21.1%)では差が見られないが、「3気にならない」において、男子「15.6%」の方が多く、女子(2.6%)の方が少ないという特徴が見られた。この男女の違いは、 $X^2$ 検定の結果、2.5%水準で有意であった。

表10は、第7問「日本人にとって敬語は必要か」の結果である。全体および男女とも、「2まあ必要」(全体55.7%、男子51.1%、女子59.2%)とする者が多いが、「1おいに必要」(41.0、46.7、38.2)もかなり多いことが示されていた。「3必要ない」とする者は女子学生1名(全体の0.8%)だけであった。

表11

第8問 最近日本語は乱れている とよく言われますが、どうお 考えですか。(89-11)	全体 頻度	%	男 頻度	%	女 頻度	%		参考 NHK調査 %
1 非常に乱れている	23	18.9	7	15.9	16	21.1	$P<0.083$	22.7
2 多少乱れている	86	70.5	29	65.9	57	75.0		66.6
3 あまり乱れていない	3	2.5	2	4.5	1	1.3		9.1
4 まったく乱れていない	3	2.5	3	6.8	0	0.0		0.5
5 わからない	5	4.1	3	6.8	2	2.6		1.1

表11は、第8問「最近の日本語は乱れているとよく言われるが、どうお考えですか」の結果である。全体では、「2 多少乱れている」(70.5%)が大多数の認識で、「1 非常に乱れてる」(18.9%)とする者も少なからずいることが示されている。1と2を合わせて「乱れている」が89.4%と圧倒的であった。しかし、「3 あまり乱れていない」(2.5%)および「4 まったく乱れていない」(2.5%)とする者も合わせて5%であることも示されていた。男女を比べてみると、1と2を合わせて「乱れている」(男81.8%、女96.1%)は、女子の方が多く、3と4を合わせ「乱れていない」(男11.4%、女1.3%)は男子の方が多いことが分かる。 $X^2$ 検定の結果、男女の差の有意水準は8%であった。また、全体での結果は、NHK調査にほぼ同じものであった。

### 3 ことばづかいやことばの乱れなどに関する学生の意識の相互関連

前記2においては、最近の世間のことばづかい(問1)、流行語への興味と使用(問2)、男性女性のことばづかい(問3～問5)、語尾(問6)、敬語(問7)、日本語の乱れ(問8)などに対し、どのような意識を持っているかを個別に検討したが、ここでは定性相関係数およびクロス集計、 $X^2$ 検定により、これらの諸事項の間の諸関連について検討する。

表12は、第1～12項目に関し、相関係数を求めたものである。この結果から、「2 敬語の使い方が乱れてきた」と「4 ことばの間違った使い方が多くなった」との間に有意な相関(0.434)が「2」と「9 おかしな話し方や変な流行語が多くなった」の間にも有意な相関(0.338)が、そして「4」と「9」の間にも有意な相関(0.294)があり、さらに「9」と「11 女性のことばが荒っぽくなった」との間にも有意な相関(0.286)が見られた。

また、「8 標準語を話せる人々が多くなった」が、「6 人前でも話のできる人が多くなった」および「12 昔ながらの方言のよさが失われてきた」と

表12 第1問の第1～12項目相互の相関係数(注. \*印 1%水準で有意)

	1 早口	2 敬語	3 漢字	4 ことば 間違い	5 口数が 少ない	6 人前で 話せる	7 外来語	8 標準語	9 流行語	10 冗談	11 女性の ことば	12 方言
1 早口の人々が多くなった	—	-.094	.132	.016	.002	.020	.127	.074	-.068	.058	.051	.122
2 敬語の使い方が乱れてきた		—	.134	.434*	-.055	-.014	.084	.099	.338*	.090	.117	-.039
3 漢字を使わない人が多くなった			—	.249*	.111	.010	.065	.143	.034	.045	-.007	.115
4 ことばの間違った使い方が多くなった				—	.001	-.051	.008	-.023	.294*	-.045	.150	.086
5 口数が少ない人が多くなった					—	-.089	.113	.029	.070	.111	.126	-.064
6 人前でも話のできる人が多くなった						—	.030	.205*	-.065	.214*	.086	.053
7 意味のわからない外来語や外国語が多くなった							—	.176	.013	.139	.114	.086
8 標準語を話せる人々が多くなった								—	-.047	.183	.114	.255*
9 おかしな話し方や変な流行語が多くなった									—	.081	.286*	-.078
10 しゃれや冗談のしまい人々が多くなった										—	.064	-.036
11 女性のことばが荒っぽくなった											—	.075
12 昔ながらの方言のよさが失われてきた												—



の間に、それぞれ0.205および0.255の相関（1%水準で有意）を示し、「10 しゃれや冗談のうまい人が多くなった」が、「6 人前でも話のできる人が多くなった」との間に、0.214の相関（1%水準で有意）を持つことも示された。

表13は、問2「流行語に興味を持っているか」を、「流行語を口にする」程度を中心に「1 いつも口にする」と「2 よく口にする」を併せ、「5 まったく興味ない」と「6 わからない」を除外して、3 区分にまとめて、第1問の8、10、11、12とのクロス集計および $X^2$ 検定を求めた結果である。表13の各セルの%は、第2問の各区分に属する人が第1問の8、9、10、11、12に「そう思う」とした比率（%）である。すなわち、「11. 女性のことが荒っぽくなった」とするのは、流行語を「1 いつも・よく口にする」人では80.8%、「2 あまり口にしない」人では43.8%「3 めったに口にしない」人では58.8%で、流行語をよく口にするひとの方が、そうでない人に比べ女性のことが荒っぽくなったと感じている割合が高いことを示した。 $X^2$ 検定によって、流行語を口にする程度と「女性のことが荒っぽくなった」と感じることに有意な差（ $P < 0.009$ ）のあることが確認できた。この傾向は、「10 しゃれや冗談のうまい人が多くなった」（ $P < 0.028$ ）、「8 標準語を話せる人が多くなった」（ $P < 0.079$ ）、「12. 昔ながらの方言のよさが失われてきた」（ $P < 0.017$ ）でも同様であった。

表13 問2と問1のクロス集計

表13 問2と問1のクロス集計			問2 流行語に興味を持ち口にするか			
問1 人々の近ごろのことはづかいについて	全 体	いつも・よく口にする	あまり口にしない	めったに口にしない		
8 標準語を話せる人が多くなった	(31人25.4%)	42.3	22.9	17.6	P<0.079	
10 しゃれや冗談のうまい人々が多くなった	(41人33.6%)	53.8	37.5	20.6	P<0.028	
11 女性のことが荒っぽくなった	(75人61.8%)	80.8	43.8	58.8	P<0.009	
12 昔ながらの方言のよさが失われてきた	(17人13.9%)	30.8	8.3	0.0	P<0.017	
		26人	48人	34人		

表14 男女のことばづかいと女性の男性的会話

		問3 男女のことばづかいは違っている方がよいか					
問4 女性の男性的会話		全 体		男		女	
		違う方が よい	場面による あまり まったく	違う方が よい	場面による あまり まったく	違う方が よい	場面による あまり まったく
2 悪い感じ		91.2	55.3	84.2	84.0	100.0	43.3
3 別に気にならない		8.8	44.7	15.8	16.0	0.0	56.7
		100 (33人)	100 (87人)	100 (19人)	100 (25人)	100 (15人)	100 (60人)
		P<0.001		P=1.000		P<0.000	

表14は、第3問「男女のことばづかいは違っている方がよいか」と、第4問「女性の男性的な会話をどう思うか」との関係を全体および男性・女性別にクロス集計・ $X^2$ 検定したものである。結果は、全体で見ると、「1（男女のことばづかいは）違っている方がよいと思う」者では91.2%が、「2（女性の男性的会話に）悪い感じがする」としたのに対して対して、「2（男女のことばづか이가）必ずしも違わなくても良い」とする者では「2悪い感じがする」は55.3%で、「3（女性の男性的会話）別に気にならない」が44.7%であった。 $X^2$ 検定の結果は、このちがいが有意（ $P<0.001$ ）であることをしめした。しかし、これを、男女別に検討してみたところ、男子では、第3問の「男女のことばづかい」に「1 違う方がよい」とした者も、「2 必ずしも違わなくてもよい」とした者も、いずれも、第4問「女性の男性的会話」は「2 悪い感じがする」（それぞれ82.4%、84.0%）で、ちがいはなかった。それに対して、女子では、第3問に「男女のことばづかいは）違う方がよい」とするものでは、全員（100%）が第4問に「2 女性の男性的会話に）悪い感じがする」としたのに対し、「2（男女のことばづか이가）必ずしも違わなくともよい」とした者では、逆に56.7%が「3（女性の男性的会話）別に気にならない」としていた。このちがいは、 $X^2$ 検定の結果有意（ $P<0.000$ ）であった。以上から、男子では第3問「男女のことば

づかい」に対する態度の如何にかかわらず、女性の男性的な会話に「悪い感じがする」とし、差がないのに対し、女性では、明確なちがいのことが示され、全体でのちがいは、女性のちがいを反映していたものであった。

表15 女性の男性的会話と男性の女性的会話

		問4 女性の男性的会話					
問5 男性の女性的 会話	全 体		男		女		
	悪 い	気にならない	悪 い	気にならない	悪い	気にならない	
2 悪い感じ	91.5	73.3	90.9	85.7	92.1	71.0	
3 別に気にならない	8.5	26.3	9.1	14.3	7.9	29.0	
	100 (78人)	100 (11人)	100 (33人)	100 (7人)	100 (38人)	100 (31人)	
	P<0.026		P=1.000		P<0.047		

表15は、第4問「女性の男性的な会話」と第5問の関連をクロス集計及び $X^2$ 検定によって見たものである。全体では3%で有意な差が認められ、女性の男性的な会話を悪いと感じる者は、男性の女性的な会話を悪いと感じ、(91.5%)、女性の男性的な会話を気にならないとする者は、相対的に男性の女性的な会話も気にならない(26.3%)とする傾向が認められた。

すでに2で述べたように、第4問の結果に性差が認められたので、第5問との関係を性別に検討してみた。この結果、男性においては有意差が認められず、女性の男性的会話を「悪いと感じている」者も「気にならぬ」者も、ともに圧倒的に女性の男性的な会話に悪い感じがする(それぞれ、90.9%、85.7%)、と思っているのに対して、女性には5%水準で有意差が認められ、女性の男性的会話を悪いと感じる者は男性の女性会話も悪い(92.1%)と感じ、女性の男性的会話が気にならぬ者は相対的に男性の女性的な会話を気にならぬ(29.0%)傾向が見られた。

表16は、第6問「語尾をのばす話し方」と第8問「日本語は乱れているか」との関連をクロス集計・ $X^2$ 検定により検討したものである。結果は、語尾をのばす話し方が、「非常に気になる」人は、それ以外の「気になるこ

表16 日本語の乱れと語尾のばし

問8 日本語は乱れているか	問6 語尾をのばす話し方				
	非常に 気になる	気になる こともある	気にな らない		N
非常に乱れている	30.8	16.5	11.1		23
多少乱れている	53.8	77.6	66.7		86
乱れていない	7.7	2.4	22.2		6
わからない	7.7	3.5	0.0		5
N	27	85	9		

$P < 0.058$

ともある」や「気にならない」とする人に比べ、相対的に日本語が「非常に乱れている」（非常に気になる人30.8%、それ以外の人11～16.5%）とする傾向になり、このちがいは6%水準で有意であった。

表17は、第1問の「2 敬語の使い方が乱れてきた」および「4 ことばの間違った使い方が多くなった」と第7問「日本人に敬語が必要だと思いますか？」との関連を見たものである。敬語を「大いに必要」とした者の90.0%が、そして「まあ必要」とした者の72.1%が、敬語の使い方が「乱れてきた」と感じており、5%水準で「大いに」と「まあ」の差は有意（ $P < 0.031$ ）であった。「大いに必要」と思っている者の方が、より「敬語の乱れ」を感じている、と言えよう。「4 ことばの間違った使い方が多くなった」との関係では敬語を「大いに必要だ」と考える者では76.0%が「ことばの間違った使い方が多い」と感じ、敬語を「まあ必要」とする者では58.8%と低くなっている。この差もまた一応有意（8%水準）であった。

表18は、第7問「敬語は必要か」と第3問「男女のことばづかいは必要か」との関連を見たもので、男女のことばづかいは「違っている方がよい」とする者では、「大いに必要」とする者（57.6%）が、「まあ必要」（42.4%）に比べ多く、男女のことばづかいは「必ずしも違わなくともよい」とする

表17 問7と問1のクロス集計

		問7 日本人に敬語は必要か			
問1 人々の近ごろのことばづかいについて	全 体	大いに	まあ		
2 敬語の使い方が乱れてきた	(98人80.3%)	90.0	72.1	P<0.031	
4 ことばの間違った使い方が多くなった	(81人66.4%)	76.0	58.8	P<0.080	
		50人	68人		

表18 男女のことばづかいと敬語

		問3 男女のことばづかいは違っている方がよいか			
問7 敬語は必要か	違っている方がよい	場面によつては			N
おおいに必要	57.6	36.5			50
まあ必要	42.4	63.5			68
N	34	83			

P<0.061

表19 問8と問1のクロス集計

		問8 日本語は乱れているか？				
問1 人々の近ごろのことばづかいについて	全 体	非常に	多少	あまり	わからない	
2 敬語の使い方が乱れてきた	(98人80.3%)	95.7	80.2	66.7	40.0	P<0.024
4 ことばの間違った使い方が多くなった	(81人66.4%)	78.3	68.6	50.0	0.0	P<0.007
9 おかしな話し方や変な流行語が多くなった	(102人83.6%)	95.7	86.0	66.7	40.0	P<0.009
		23人	86人	6人	5人	

者では、敬語は「大いに必要」(36.5%)とする者より「まあ必要」(63.5%)の方が多。この差は、 $X^2$ 検定の結果6%の有意水準であつた。

表19は、第8問「最近、日本語は乱れているとよく言われていますが、どうお考えですか」と第1問の2、4、9の項目との関係を見たものである。「2 敬語の使い方が乱れてきた」との関係では、日本語は「非常に乱れている」と考える者ほど「敬語の使い方が乱れてきた」と感じている者の

割合が高い。次に「ことばの間違った使い方が多くなった」との関係でも、「非常に乱れている」と感じている者ほど、「ことばの間違った使い方が多くなった」と感じている者の占める割合（78.3%）が有意（1%水準）に高い。さらに、「9 おかしな話し方や変な流行語が多くなった」との関連では、「非常に乱れている」と感じている者ほど「おかしな話し方や変な流行語が多くなった」と考えている者の割合が高い（95.7%）ことが、1%水準で有意なことが示された。

## 考 察

1. 「流行語」を普段使用している学生、使ったことのある学生は、男女ともに非常に多く、特に男子より女子に多い傾向が認められた。

「流行語」のうち、70%以上の高い被使用率を示している語には、「ほんと?」「あっそっか」「やばい」「わけわかんない」「ばっかみたい」「むかつく」「ウッソー」「ダサイ」等、一語で完結しており、単独に、合の手を入れるように使用されやすい語が多く含まれている。他の語と結びついて意味の出る「超（ねむい）」「(かっこいい) じゃん」「(おかし) すぎる」などの語は例外的であった。他方、低使用率を示す語には「巨ばか、巨ブス」「はぶんちょ」「メチャンコかわいい」「ぶっとびー」「うれピー」「デューグする」などがあり、若者用語としての「流行語」ではあっても、一律に使われるのではないことを示している。なお「デューグする」は就職前の学生にとっては使う機会がなくて当然であろう。一律に使われているのではないということは、とりわけ男子によく使用される「だっせえ」「はずしたな」「しびい」などの語があり、他方、とりわけ女子によく使用される「ウッソー」「おかしすぎる」「ケーキ好きだし」などの語があることも一致するものであった。

2. 人々の近ごろのことばづかいについてどう感じているのか、について

は、「おかしい話し方や変な流行語が多くなった。」「敬語の使い方が乱れてきた」と感じている者が著しく多いことがわかる。これらは、1989・1990両年のNHK調査結果よりも高率であった。他にも「ことばの間違った使い方が多くなった」「意味のわからない外来語や外国語が多くなった」「女性のことばが荒っぽくなったなど、「ことばの乱れ」にまとめられる項目が選ばれる率が高く、その他の項目の選ばれる率が比較的低い。選ばれる率が比較的低い項目の中で、「漢字を使わない人が多くなった。」「人前でも話のできる人が多くなった」「昔ながらの方言のよさが失われてきた」は本調査結果よりもNHK調査結果の方がより高率であった。学生は「方言」の担い手ではないこと、NHK調査の被調査者の年齢幅が広いこと、などによると考えられる。

3. 「流行語への興味・関心」をもつ者はおしなべて多いが、「流行語を口にする」者はあまり高率ではない。「流行語」を普段使っている学生、使ったことのある学生が極めて多数である、というⅠの結果とこれは矛盾している。「流行語」を多数使っているが「(流行語を)口にしないと回答している学生も少なくない。さらに、女性の方が「口にしない」回答率は高いのであるが「普段使っている」と回答した者は男性よりも女性に多い。これも矛盾した回答である。彼らの日常的によく口にする語は、改めて「流行語を口にする」と聞かれた時「流行語」とは意識しないで回答している結果の反映であるかもしれない。

こうした矛盾はあるものの1990年のNHK調査結果よりも、「口にする」者は多く、学生・若者の特徴を示しているものと考えられる。

4. 「男女のことばづかいの違い」「女性の男性的な会話」「男性の女性的な会話」についての結果からは、多くの者が「男女のことばづかいの違い」を肯定的に認めており、「女性の男性的な会話」「男性の女性的な会話」に否定的な考えを示す者が多い。しかし、男性においては、女性の男性的な

会話についておしなべて悪い感じをもつのに対して、女性においては、女性にふさわしい会話、男性にふさわしい会話の区別を気にしない者が多くなっている。よく言われる女性の会話の男性化現象をうらづけているといえよう。

5. 「語尾をのばす話し方」については「わからない」者は0、「気にならない」者は9人だけであり、大多数の者は「気にしている」と回答している。「流行語」使用例に「ウッソー」等の語尾をのばす流行語が含まれており、彼らは「語尾をのばす」話し方を日常的に多用している、と推測される。にもかかわらず、「気にしている」ということは、使用し→注意され→気にしている。あるいは、世間でよくいわれることであり→気になる、といういきさつがあるのかもしれない、と考えられる。彼らは、使いながらも彼らなりに気にしてもいるのである。

6. 敬語は必要ないと思うものは女子1名、わからないとする者は男女各1名に過ぎず、大部分の者が、「おおいに」あるいは「まあ」敬語が必要だと思っている。

彼らは、敬語の使い方が乱れてきた、と感じ、「ことばの間違った使い方が多くなった」とも感じている。さらには、「最近日本語は乱れているとよくいわれている」ことに対して、同感である者の多くが「敬語の使い方が乱れてきた」と感じている

若者が、「ことばの間違った使い方が多くなった」と感じ「日本語は乱れているといわれている」ことを肯定するとき、敬語が乱れている、と感じることと密接に結びついて判断されているのかもしれない。

それはまた、敬語の使い方について注意を受ける経験の多さとも結びついているのかもしれない。

7. 日本語は乱れている、と言われることについては、多くの若者が「乱れている」という考えに同意している。同意している者の多くが、「敬語の



使い方が乱れてきた」、「ことばの間違った使い方が多くなった」、「おかしな話し方や変な流行語が多くなった」と感じている。また、「語尾のぼし」を気にしている者の多くが、「日本語は乱れている」と考えている者である。また、「流行語をあまり口にしない」者の中に、「日本語は多少乱れている」と感じている者が多い。

以上から、全体として言えることは、「流行語」が、これらの学生の間では、むしろ「日常語」となっていることである。特に、「ほんと?」「あっそっか」「やばい」「わけわかんない」などは使用率が90%以上で、「流行語」を使っているという意識もなく使われているように思われる。

また、例えば、流行現象の中で、服装の色の流行などでは1/4~1/3の者が使えば大流行であるが、「流行語」に関して言えば、1/4以上の学生が使用する語は39語中36語(92.3%)、1/3以上で見ても39語中31語(79.4%)で、ほとんどの「流行語」が大流行と言えるものであった。この意味では、「語の流行」は流行現象の中でも特異な位置を占めているといえることができる。

ともかく、本調査結果は、筆者らの予想をはるかにこえて、「流行語」がむしろ「日常語」となっていることを示し、まさに「言葉は生きている」(時代とともに変化しつづけている)ことを如実に示すものであった。

(追記) 本研究は、上杉の指導による1990年度提出の卒業論文(山本潔)のデータを使用させていただき、卒業論文とは視点を変えて分析・検討したものである。データを提供いただいた山本潔さんには記して感謝する次第である。

#### (参考文献)

1. 「放送研究と調査」 89年8月号, 1989, NHK放送研究部
2. 「放送研究と調査」 90年7月号, 1990, NHK放送研究部

3. 『現代用語の基礎知識』 90年度版, 自由国民出版社
4. NHKことば調査グループ編 1980 『日本人と話しことば』 日本放送出版協会